

延岡大空襲



延岡大空襲後の市街地（総務省HPより）

75年前の今朝、
岡富中の周りは焼け野原だった。

いま 日本国憲法で戦争を放棄していますが、かつて日本は戦争をする国でした。

延岡に初めて爆弾が投下されたのは、太平洋戦争が終わりにさしかかった昭和20年（1945）3月4日の朝。5月には農家の防空壕や現旭化成工場宿舎近くに爆弾が落ち、亡くなった方がいます。また、離島の島野浦では、小学校や民家が米戦闘機の機銃掃射に遭い、小学

生や住民が犠牲になりました。このように、延岡は10数回の空襲にさらされたのです。

暗い空から落下音が

6月28日、梅雨空の蒸し暑い夜でした。11時半ごろ、空襲警報が鳴り響きました。投下された照明弾によって、市街地は真昼のように明るく照らされま

した。市民は防空壕に避難しましたが、「いつも通り、上空通過で終わるだろう」と考え、家に戻った人もいました。しかし、その日はいつもと違って

日付が変わった29日午前1時46分ごろから、多数の焼夷弾が投下され、市街地はまたたく間に火の海と化しました。愛宕山も一部が燃えたそうです。

延岡は、日本における軍用爆薬生産上、最も重要な場所の一つとされてきました（『米軍資料・北九州の空襲』。延岡に飛来したB29爆撃機は117機。91分間に約10万発の焼夷弾を投下したのです。

安賀多国民学校（現延岡中）では、栗田彰子先生が燃える校舎の火を消そうとして焼夷弾の直撃を受け、殉職。一方、安

賀多橋の下には多くの市民が逃げ込み、命が救われました。夜が明けると、あたり一面焼け野原の中、城山の緑がくつきりと朝日に映えていたそうです。

延岡大空襲の犠牲者は、のちの調査で320人に修正されていますが、これは正確な数字とはいえません。

当時、岡富中はまだなく、この場所にあったのは「県立延岡高等女学校」（「岡富中学校沿革史」）。校舎は空襲で全焼し、からみレンガの塀が残りました。もちろん、今では想像がつかない光景です。

今日は75年目の大空襲の日。戦争の犠牲となった数知れない無辜の魂に哀悼の意をささげるとともに、戦争の悲惨さ、平和の大切さを今一度考えた

ものです。

（HP「総務省」「延岡バックステージ」「タリデイリー」「延岡市史」他より構成）



安賀多橋北詰にある「命の橋」の碑

※無辜：罪がないこと。また、その人。 哀悼：人の死を悲しむこと。

殉職：職務中の事故が原因で死亡すること。

2020年度第4号

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年 組／お名前 (ペンネームもO.K.です)

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか？ (○・×)